

企業経営プログラム

企業経営にまつわる基礎的・学術的な知識や手法を学び直して、個々の現場で活かしましょう！



ICTの急速な進歩に伴う社会のDX化によって、企業の内部と外部双方においてそれに対応した変革が求められている。そのような変革は、単純に新たな技術を導入すれば済むものではない。アクセス可能なビッグデータを活かした経営分析やマーケティング手法などの実務的戦略は言うまでもなく、DX化の波に直面している企業の財務管理の捉え方や雇用関係のあり方といった企業制度においても変革が求められる。

本プログラムでは、上記のような時代の変化のキーワードに対応する科目群から構成されており、企業経営に関連する基礎的・実務的な考え方や手法を学ぶことができるようになっている。本プログラムを修了することによって、個別企業独自の企業経営の慣習や制度を社会の変化にいかに対応させていくか、その学術的・汎用的な基礎知識、ビッグデータや財務情報を用いた数量データの処理方法や解釈、雇用関係をめぐる法制度の知識、社会や地域の課題解決に向けた組織やその活動のあり方などを再確認することができる。

正課の授業科目によるリスキリングプログラム

プログラム名	企業経営プログラム
プログラム設置部局	人間社会学域
プログラムコーディネーター	佐藤 清和
概要	<p>情報通信技術の急速な進歩に伴う社会のDX化によって、企業の内部と外部双方においてそれに対応した変革が求められている。そのような変革は、単純に新たな技術を導入すれば済むものではない。アクセス可能なビッグデータを活かした経営分析やマーケティング手法などの実務的戦略は言うまでもなく、DX化の波に直面している企業の財務管理の捉え方や雇用関係のあり方といった企業制度においても変革が求められる。</p> <p>本プログラムでは、上記のような時代の変化のキーワードに対応する科目群から構成されており、企業経営に関連する基礎的・実務的な考え方や手法を学ぶことができるようになっている。</p>
到達目標	<p>経営分析・マーケティング分析について方法論およびデータ分析手法の習得、さらに財務・会計の基本的なしくみと考え方、人的管理に関連する雇用関係の法的制度について理解することを目標とする。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ビッグデータの活用方法と企業経営への活かし方 2. マーケティングの方法論と実際の分析方法 3. 簿記会計の基本的しくみと会計データの活用方法 4. 雇用関係をめぐる法的な考え方と現代の法制度
履修資格・条件・前提知識の目安	<ol style="list-style-type: none"> 1. Excel等のソフトウェアの初歩的な操作や関数の知識があることが望ましい。 2. 経理や労務管理といった経営実務の経験があることが望ましい。
履修期間及び開始Q	履修期間: Q1からQ4、開始Q: Q1
修了要件	6科目中から6単位以上を修得すること

授業科目名	開講学類等	単位数		修了要件 内訳	備 考
		必修	選択		
マーケティング論	経済学類	2			
経営情報分析論	経済学類	2			
簿記会計論	経済学類		2		
非営利組織運営論	地域創造学類		1		
雇用関係法A	法学類		2		
雇用関係法B	法学類		2		

特記事項	特になし
問合せ先	<p>プログラムコーディネーター: 人間社会研究域経済学経営学系 佐藤 清和 メールアドレス: kiyosato@staff.kanazawa-u.ac.jp</p> <p>担当係: 人間社会系事務部学生課教務・学生支援担当 メールアドレス: n-kyomu@adm.kanazawa-u.ac.jp</p>

プログラム名						
企業経営プログラム						
プログラムのCP(教育課程編成に関する基本的考え方)						
本プログラムでは、企業経営に関連する専門教育科目を体系的に編成する。						
教育内容・教育方法(教育課程実施)に関する基本的考え方						
<p>1. 教育内容</p> <p>(1)「経営情報分析論」では、主にデータ分析の手法について学ぶ。</p> <p>(2)「簿記会計論」では、簿記会計の基本的なしくみを学ぶ。</p> <p>(3)「マーケティング論」では、マーケティングに関する理論から分析方法、これからの発展と課題について学ぶ。</p> <p>(4)「非営利組織運営論」では、非営利組織の活動や課題を対象としているが、それは民間企業における企業の社会的責任(CSR)を考える際のヒントも提供しうるものである。</p> <p>(5)「雇用関係法」では、労働法をベースに、これまでそしてこれからの雇用関係法のあり方について学ぶ。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>(1)基本的に講義形式で実施する。</p> <p>(2)特に「経営情報分析論」では、ソフトウェアの使い方からデータ分析の実践まで講義する(PC持参)。</p>						
プログラムを構成する科目						
科目番号	授業科目名	学修目標	Q1	Q2	Q3	Q4
45304	マーケティング論	伝統的な製品中心のマーケティング理論体系を理解してもらい、マーケティングに関連するビジネス現象を説明するための基本的な考え方(分析視点)を習得してもらおう。そのもとで、変化する消費者と市場環境、マーケティングの新しい課題について理解してもらい、マーケティング理論の新しい発展を展望する。			○	
45321	経営情報分析論	様々な機械学習手法の分析方法とその仕組みを理解し、実践的に分析できるようになる。また、実社会の課題に関連するデータを自ら取得し、講義を通して身に付けた技能を応用して解析できるようになる。		○		
45308	簿記会計論	伝統的複式簿記実践の基本的構造と機能を理解する。	○			
35E27	非営利組織運営論	本講義では、営利を目的としない社会的・公共的活動(企業の社会的貢献、市民団体、自治組織等)を対象に市民団体の特徴、団体運営、課題などを解説し、非営利活動について体系的に理解を深める。また、関心の高い課題ごとにディスカッションを行い、課題解決に向けた思考性を高める。		○		
32430	雇用関係法A	労働法の基本構造を学ぶとともに、現代社会においてなぜ雇用関係法が必要か、また、どのように機能しているかを理解・分析することができる。			○	
32432	雇用関係法B	労働法の基本構造を学ぶとともに、現代社会においてなぜ雇用関係法が必要か、また、労働市場の変化の中で新たに生じている発展的課題を理解・分析することができる。				○